2022年9月11日  川越教会

丸山　勉

主よ、私はあなたに祈ります

［ダニエル書9章15～19節］

「わたしたちの神である主よ、強い御手をもって民をエジプトから導き出し、今日に至る名声を得られた神よ、わたしたちは罪を犯し、逆らいました。主よ、常に変わらぬ恵みの御業をもってあなたの都、聖なる山エルサレムからあなたの怒りと憤りを翻してください。わたしたちの罪と父祖の悪行のために、エルサレムもあなたの民も、近隣の民すべてから嘲られています。わたしたちの神よ、僕の祈りと嘆願に耳を傾けて、荒廃した聖所に主御自身のために御顔の光を輝かしてください。神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開いて、わたしたちの荒廃と、御名をもって呼ばれる都の荒廃とを御覧ください。わたしたちが正しいからではなく、あなたの深い憐れみのゆえに、伏して嘆願の祈りをささげます。主よ、聞いてください。主よ、お赦しください。主よ、耳を傾けて、お計らいください。わたしの神よ、御自身のために、救いを遅らせないでください。あなたの都、あなたの民は、御名をもって呼ばれているのですから。」

 [１] 祈ることへの気付き

　個人的なことで恐縮ですが、もう先月のことなのですが（8/4）、私たちの娘夫婦に二人目の子が与えられました。今度は男の子で、既に2才になった女の子の弟ということになります。私たちもいつの間にか二人の孫がいるようになってしまいました。その子を抱っこもさせてもらって、「ああ、赤ちゃんってこんなにちっちゃかったんだ」って思いましたし、喜びと共に、命の不思議さというものも改めて思いました。そして、こんなことも思いました。例えばこの子が成人する頃、自分はこの地上にはいないのだろうなと思いました。まあ、分かりませんけれども…。でも私がそれが嫌だというような思いではなく、何か、必ずピリオドがあるこれからの人生の年月がイメージ出来るような感じが致しまして、私はこれからどのように生きるべきかを考えさせてもらったように思っています。

　そこで思ったことは二つあります。一つは、なるべく身軽になっていこうということです。モノも溜め込まずに減らしていく。本の類とかCDとか結構溜まっているけどどんどん売ってしまおうとか、バリバリ仕事をするのではなく、なるべく落ち着いた生活をしようと思ったり（まあ、いわゆる終活です）、あと思ったことは、こちらの方が大事かと思いますが、「祈る人」にならせてもらいたい！と思いました。それはこの幼な子のために心から祈ってゆきたい、ということもありますが、私は普段から祈りということが本当に不十分だなと思わされているのです。祈った気になっているだけで、本当に神様の前に出て、時間を気にせず、じっくりと祈るようなことが恥ずかしながら出来ていないなと思います。“忙しいから”祈れないというのは、本当は違うのだろうと思います。それは、この世の流れに押し流されてしまっていて、祈りという呼吸が出来なくなってしまっていることの言い訳になってしまっているように思います。神様の命を呼吸せず、この世の価値観を呼吸していても生きてはいけます。しかし、それで本当に天からの風を‟呼吸”出来ているのかどうかということです。

［2］ 悔い改め

 私はそんなことを、今回のダニエル書の9章を読んで感じました。（来週は林先生が違う聖書箇所から宣教して下さるので、『聖書教育』の聖書箇所を一週間早めました）。

　先ほど私は「この世の流れに押し流されてしまって」と申しました。そして祈ることを見失ってしまっていると。それは、私たち皆そうなのかも知れません。いや、正確に言えば、祈ることはすると思うのです。例えば今日は9.11ですけれども、世界平和のために祈るでしょう。今は私たち、特にウクライナのために祈るでしょう。また自然災害や大地震、飢餓などの被害が酷くならないように祈るでしょう。それは尊いことだと思います。けれども、敢えてこのような言い方をさせて頂くことを許して頂きますと、まことの神様に向かって祈り求めるということと、漠然とした神様と思える存在に祈ることは、例えて言うなら目的地がハッキリとした旅をするのか、或いは、磁石も持たず白い霧の中に置かれて立ち往生してしまっているか、ほどに違うと思います。それは考えると恐ろしいことです。自分の立ち位置が分からず、時間だけが経過し流されるままになってしまう。

預言者ダニエルは、異国の王が支配している場所で、不思議な導きの中、王の側近となりました。異教の地で、立場を得たのです。そのように権力を持った人間は変質してしまうことが多い。しかし、ダニエルはそうではなかったようです。この9章のダニエルはもう青年ではなかったと言われています。もう人生の秋から冬の時期だったかもしれません。しかし、ここで彼は明確な意思を持って祈っています。自分の原点である信仰共同体の危機の中で、その信仰共同体が回復するため、彼は灰を被って祈っているのです。9章の初めの部分を読んでみます。―「ダレイオスの治世第一年のことである。ダレイオスはメディア出身で、クセルクセスの子であり、カルデア人の国を治めていた。さて、わたしダニエルは文書を読んでいて、エルサレムの荒廃の時が終わるまでには、主が預言者エレミヤに告げられたように七十年という年数のあることを悟った。わたしは主なる神を仰いで断食し、粗布をまとい、灰をかぶって祈りをささげ、嘆願した。わたしは主なる神に祈り、罪を告白してこう言った。「主よ、畏るべき偉大な神よ、主を愛しその戒めに従う者には契約を守って慈しみを施される神よ、わたしたちは罪を犯し悪行を重ね、背き逆らって、あなたの戒めと裁きから離れ去りました。 」―彼の祈りは、自分ひとりのための祈りではなく、仲間と共に神様の憐みに与るための祈りでした。この後も続くこの祈りは、「悔い改め」の祈りから始まっている、ということがとても大事なことだと思います。そう、まことの神様を知っているものは悔い改めることが出来るのです！

けさ、9章全部を読むことは致しませんが、是非、後ででもじっくりとお読みください。私はこれはとても愛に満ちた、また教会の礼拝で祈られても良い祈りだと思いました。特に先ほど読んで頂いた15節から19節は素晴らしいと思います。もう一度味わってみましょう。―「わたしたちの神である主よ、強い御手をもって民をエジプトから導き出し、今日に至る名声を得られた神よ、わたしたちは罪を犯し、逆らいました。主よ、常に変わらぬ恵みの御業をもってあなたの都、聖なる山エルサレムからあなたの怒りと憤りを翻してください。わたしたちの罪と父祖の悪行のために、エルサレムもあなたの民も、近隣の民すべてから嘲られています。わたしたちの神よ、僕の祈りと嘆願に耳を傾けて、荒廃した聖所に主御自身のために御顔の光を輝かしてください。神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開いて、わたしたちの荒廃と、御名をもって呼ばれる都の荒廃とを御覧ください。わたしたちが正しいからではなく、あなたの深い憐れみのゆえに、伏して嘆願の祈りをささげます。主よ、聞いてください。主よ、お赦しください。主よ、耳を傾けて、お計らいください。わたしの神よ、御自身のために、救いを遅らせないでください。あなたの都、あなたの民は、御名をもって呼ばれているのですから。」―このような祈りはちゃんと神様に届いているということがこの後を読むと分かります。神様は、悔い改めから始まる真心からの祈りを無視なさいません。私たちがどのような罪人であっても、あの十字架の上の罪人が「イエスよ、あなたが御国においでになる時はわたしのことも思い出して欲しい」と小声で言った時、同じように十字架につけられていた主は 「今日、あなたは私と共にパラダイスにいる」（ルカ23:43）と仰いました！どんな状況であっても、自分自身を主へと開く時に、そこは主共にいまし給う‟神の国”となるのです！これが、私たち一人ひとりが生かされている人生の一番の幸いです。人生の秘儀です。

［3］ 祈れる幸いをご一緒に！

先日の木曜日の朝、祈り会が始まる少し前に、週報にも書かせて頂きました、ある信仰の兄弟からお電話を頂きました。私はその方からお電話を頂いたのは初めてでした。今病院の中から電話をしている、ということで私は驚きました。病気が再発してしばらく入院なんですと仰います。実は前日そのご家族からも夫のために祈って欲しいとメールを頂きお祈りしていたので、ああ、そうだったのかと思いました。彼は全く普通の声で、むしろ明るく、現状のこと、これからこのようになるだろうということをお語りになり、一番気がかりなのは家族のことなので、教会の方にも是非お祈りして欲しいと言われました。私はもちろんです、と申し上げ、受話器を通して短くお祈りさせて頂きました。祈りのあと、「アーメン」と声を揃えましたら、そのあと、彼が、私も祈らせて下さいと仰るので、お願いししますと申し上げました。彼は祈り始めたのですが、何を祈り始められたかと言うと、私たち川越教会のことでした。川越教会がこれからも祝されますように、礼拝が祝されますようにと祈られました。そして、ご家族のことをお祈りされたように思います。

…私たちキリスト者は、祈る者たちです。祈るお方を知っているということはどんなに幸いなことでしょうか！この世に流されないで、しかしこの地に足をしっかりつけながら、光が射す上を仰いで行きましょう。やがて私たち誰もが帰る天の都の確かな約束を信じながら。

今日バプテスマを受けられたＳ・Ｋさん、あなたの名は天にしっかりと刻まれました。私たちの国籍（まことの故郷）は天にあります。だからパウロは言いました。「わたしにとって生きることはキリスト、死ぬこともまた益である」（ピリピ1:21）と。私たち、ご一緒に、天からの光をいつも新しく受けていく教会を作って参りましょう。「祈れる」幸いを一人でも多くの方とご一緒できるように！お祈り致します。

主なる神様、今日の礼拝を感謝致します。ここはあなたと私たちが交わるところ。教会は祈りの家です。祈る事少なく、祈ったとしても自己拡大のような祈りにいつしかなってしまうこの者をどうぞお赦しください。どうか、ダニエルが真心から悔い改め、祈ったように、いつもあなたの憐みと赦しを信じ、共同体として、あなたの救いの業を見させて頂けますように。病の中にある友を、そのご家族を守り、お支え下さい。バプテスマも心より感謝致します。あなたの祝福を、彼女と、この教会の上に豊かに豊かに注いで下さいますように。イエス・キリストの御名によって祈ります。アーメン。